

RAS 変異型大腸癌肝転移の病理組織学的特徴

1. 臨床研究について

九州大学病院では、最適な治療を患者さんに提供するために、病気の特徴を研究し、診断法、治療法の改善に努めています。九州大学病院消化器・総合外科では、現在大腸悪性腫瘍の患者さんを対象として、「RAS 変異型大腸癌肝転移の病理組織学的特徴」に関する「臨床研究」を行っています。

今回の研究の実施にあたっては、九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会の審査を経て、研究機関の長より許可を受けています。この研究が許可されている期間は、2030 年 3 月 31 日までです。

2. 研究の目的や意義について

大腸悪性腫瘍では遠隔転移をきたした進行症例であっても、手術で完全に切除することができれば根治の可能性があり、手術治療は非常に重要です。一方で、RAS 変異型大腸癌肝転移では手術の断端に癌が遺残する断端陽性となる傾向があると報告されており、課題となっています。RAS 変異型大腸癌肝転移は病的にどのような特徴を持つのか解明することで、手術の安全性や根治性の向上に寄与できると考えられます。

3. 研究の対象者について

2011 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までに九州大学病院消化管外科で大腸癌肝転移の手術を受けた患者さんで、RAS 遺伝子検査の結果が判明している 164 名を対象とさせていただきます。

研究の対象者となることを希望されない方又は研究対象者のご家族等の代理人の方は、事務局までご連絡ください。

4. 研究の方法について

この研究を行う際は、カルテより以下の情報を取得します。また、保管されている病理組織を用いて、HE（ヘマトキシリン・エオジン）標本を顕微鏡で観察し、病理組織所見の観察と断端距離を測定します。

〔取得する情報〕

年齢、性別、RAS および BRAF 遺伝子検査結果、原発巣および肝転移巣の病理組織像、手術日、術式、化学療法の有無とレジメン、腫瘍マーカー（CEA、CA19-9）、肝内再発日、再発日、最終的な予後

〔利用又は提供を開始する予定日〕

研究許可日以後

以上により得られたデータを用い、統計分析を行うことで、RAS 変異型大腸癌肝転移の病理組織像の特徴と予後との関連を解明します。

5. 研究への参加を希望されない場合

この研究への参加を希望されない方は、下記の相談窓口にご連絡ください。

なお、研究への参加を撤回されても、あなたの診断や治療に不利益になることは全くありません。その場合は、収集された情報などは廃棄され、取得した情報もそれ以降はこの研究目的で用いられることはありません。ただし、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。

6. 個人情報の取扱いについて

研究対象者の病理組織、カルテの情報をこの研究に使用する際には、研究対象者のお名前の代わりに研究用の番号を付けて取り扱います。研究対象者と研究用の番号を結びつける対応表のファイルにはパスワードを設定し、九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野内のインターネットに接続されていないパソコンに保存します。このパソコンが設置されている部屋は、同分野の職員によって入室が管理されており、第三者が入ることはできません。

またこの研究の成果を発表したり、それを元に特許等の申請をしたりする場合にも、あなたが特定できる情報を使用することはありません。

この研究によって取得した情報は、九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野・教授・相島 慎一の責任の下、厳重に管理を行います。

ご本人等からの求めに応じて、保有する個人情報を開示します。情報の開示を希望される方は、ご連絡ください。

7. 試料や情報の保管等について

[試料について]

この研究において得られた研究対象者の取得された試料は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野・教授・相島 慎一の責任の下、5年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

[情報について]

この研究において得られた研究対象者の取得された情報は原則としてこの研究のために使用し、研究終了後は、九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野・教授・相島 慎一の責任の下、10年間保存した後、研究用の番号等を消去し、廃棄します。

しかしながら、この研究で得られたあなたの資料や情報は、将来計画・実施される別の医学研究にとっても大変貴重なものとなる可能性があります。そこで、あなたの同意がいただけるならば、前述の期間を超えて保管し、将来新たに計画・実施される医学研究にも使用させていただきたいと考えております。その研究を行う場合には、改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認された後に行います。

8. この研究の費用について

この研究に関する必要な費用は、九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野の部局運営費でまかなわれます。

9. 利益相反について

九州大学では、よりよい医療を社会に提供するために積極的に臨床研究を推進しています。そのための資金は公的資金以外に、企業や財団からの寄付や契約でまかなわれることもあります。医学研究の発展のために企業等との連携は必要不可欠なものとなっており、国や大学も健全な産学連携を推奨しています。

一方で、産学連携を進めた場合、患者さんの利益と研究者や企業等の利益が相反（利益相反）しているのではないかという疑問が生じる事があります。そのような問題に対して九州大学では「九州大学利益相反マネジメント要項」及び「医系地区部局における臨床研究に係る利益相反マネジメント要項」を定めています。本研究はこれらの要項に基づいて実施されます。

本研究に関する必要な経費は九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野の部局運営費でまかなわれ、研究遂行にあたって特別な利益相反状態にはありません。

利益相反についてもっと詳しくお知りになりたい方は、下記の窓口へお問い合わせください。

利益相反マネジメント委員会

(窓口：九州大学病院 ARO 次世代医療センター 電話：092-642-5082)

10. 研究に関する情報の公開について

この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことができます。資料の閲覧を希望される方は、どうぞお申し出ください。

また、この研究に関する情報や研究成果等は、以下のホームページで公開します。

名称：九州大学大学院医学研究院 構造病態病理学分野

URL：<https://aishima-lab.jp/>

11. 特許権等について

この研究の結果として、特許権等が生じる可能性があります、その権利は九州大学及び共同研究機関等に属し、あなたには属しません。また、その特許権等を元にして経済的利益が生じる可能性があります、これについてもあなたに権利はありません。

12. 研究を中止する場合について

研究責任者の判断により、研究を中止しなければならない何らかの事情が発生した場合には、この研究を中止する場合があります。なお、研究中止後もこの研究に関するお問い合わせ等には誠意をもって対応します。

13. 研究の実施体制について

この研究は以下の体制で実施します。

研究実施場所	九州大学病院消化管外科 九州大学病院病理診断科 九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野
研究責任者	九州大学大学院医学研究院構造病態病理学分野 教授 相島 慎一
研究分担者	九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野 教授 吉住 朋晴 九州大学病院先端医工学診療部 教授 沖 英次 九州大学病院消化管外科（2）医員 吉山 貴之

1 4. 相談窓口について

この研究に関してご質問や相談等ある場合は、下記担当者までご連絡ください。

事務局 (相談窓口)	担当者：九州大学病院消化管外科（2） 医員 吉山 貴之 連絡先：〔TEL〕 092-642-5466（内線 5466） 〔FAX〕 092-642-5482 メールアドレス：yoshiyama.takayuki.114@m.kyushu-u.ac.jp
---------------	---

【留意事項】

本研究は九州大学医系地区部局観察研究倫理審査委員会において審査・承認後、以下の研究機関の長（試料・情報の管理について責任を有する者）の許可のもと、実施するものです。

九州大学病院長 中村 雅史